

【樹木・草花の部屋】

ドウダンツツジ（ツツジ科ドウダンツツジ属 *Enkianthus perulatus*）

和名；ボタン **別名**；灯台躑躅、満天星 **英名**；

ツツジ目 落葉広葉樹

原産地；日本固有種

花言葉；節制

花の色；白、



← 写真－1 ドウダンツツジの樹形

撮影日：2012年4月25日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

10 数年前、故郷の道路沿いに植栽されているのを見て購入。当初、定植した場所ではなかなか花が咲きませんでした。2回ほど場所替え。現在の場所に移してから毎年咲くようになりました。成長が遅かったのか、定植場所が悪かったのか不明です。現在はほぼ一日、陽が当たり、西日は当たらない場所です。

写真－2 ドウダンツツジの花 ⇒

撮影日：2010年4月18日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

花期は、葉が出てから約1週間後、。白色、釣り鐘のような感じの、5mm程の大きさに垂れ下がるように咲きます。花序は散形花序。派手さが無く、遠目ではなかなか気付かれない存在ですが、清楚で可愛い花です。葉は新緑、花期、紅葉と、楽しめます。



【樹木・草花の部屋】

ツツジ科の特徴として根が浅いので乾燥には要注意。今年の夏の日照りで、あわや枯死寸前まで行きましたが、なんとか持ちこたえています。

我が家ではツツジの古株に替えてドウダンツツジとサラサドウダンを交互に植えて生垣づくりを始めました。なにせ、挿し木から育てた苗木を使用したので、結構、時間がかかっています。

剪定は刈込もできますが、全体が込み合わないよう透かし剪定を基本にしています。花が葉に隠れることなく、綺麗に見えます。

挿し木：挿し木の適期は新しい枝が十分に充実した6月頃が適期です。今年伸びた新しい枝を付け根からとりさし穂を作ります。下の方の葉を取り除いて、鹿沼土を入れた鉢に挿し、直射日光の当たらない風通しの良い場所で乾かさないように管理します。だいたい2ヶ月くらいで根が生えてきますので翌年の春に植え付けるまでそのままの状態です。

<ちょっと一言>

ドウダンツツジ（灯台躑躅）の名前の由来は、枝分かれする形が「燈台」（燈明台、または、結び燈台、燭台（しょくだい）とも）に似ていることから「とうだいつつじ」になり、さらに次第に変化していった「どうだんつつじ」になったと言われます。

ふつう略して「どうだん」と呼ぶことが多いです。また、枝分かれする形が、岬に立つ「灯台」の脚の部分に似ていることから「とうだいつつじ」になった、との説もあります。また、花がいっぱい咲く様子を星に見立て「満天星躑躅」とも書かれたとも言われます。

同じドウダンツツジ属には ベニサラサドウダン、サラサドウダン、チチブドウダン などがあります。